

東風の里通信

134 号

発行元
東風の里広報委員会

南部地区医師会立 介護老人保健施設『東風の里』
〒901-0411 沖縄県八重瀬町字友寄 891 - 1 番地
TEL(098)998 - 9390 FAX(098)998 - 9393
<http://www.nanbu.okinawa.med.or.jp>

入所敬老会



10月14日入所敬老会が開催されました。野原施設長の開会・乾杯の挨拶、「玉城流華豊の会」、内間様御一行による舞踊で幕開けとなり、JAFフラサークル「カウイ」の皆様のフラはとても優雅で、美しいダンスでした。

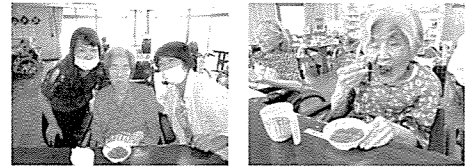
今年は13名の利用者様がトーチ、カジマヤーを迎えられました。東風の里の最高齢はなんと百七歳！野原施設長より利用者様へプレゼントの贈呈後、今年カジマヤーを迎えられた鈴木ツル様より、利用者様代表挨拶をしていただきました。

可愛らしいシーサー保育園の園児によるダンスや、友寄獅子舞棒術保存会の皆様によるダイナミックな獅子舞の演舞で会場は大いに盛り上がり、会場の皆さんの力チャージで幕引きとなりました。

今年も多くの御家族の皆様と一緒に楽しい時間を過ごす事ができ、とても思い出深い敬老会となりました。余興者の皆様、御家族の皆様、本当にありがとうございました。

今後も皆様楽しんでいただけるよう職員一同頑張っていきたいと思えます。

2階入所介護 知念勝裕



9月10日(日)、2階・3階において、レク委員会主催のスイカ割りを実施しました。

最初は入所者のみなさん、「できないよ〜!」と言って遠慮していましたが、棒を持つと顔つきが変わり、なんとスイカを割ろうと何度も叩く方もいらっしゃいました。普段は消極的な利用者様ですが、みなさんとても楽しんで、笑顔あふれる時間となりました。次回はオヤツ会を予定しておりますのでお楽しみに!!

2階入所介護 レク委員会 金城麻里

スイカ割り



インフルエンザ注意報 | 夏の沖縄でなぜ流行? 感染防止のためにできること

インフルエンザは冬の感染症というイメージがありますが、沖縄では夏場にも患者が多く、その数は全国でも突出しています。今年は5年ぶりに、夏場の注意報発令となりました。沖縄でのインフルエンザの流行傾向や特徴、感染が広がらないために大切なこととは何でしょう。

■今シーズンの特徴

インフルエンザは、例年は冬場にA型ウイルスが流行、そのあと初夏にかけてB型が流行した後は収束に向かう傾向がありますが、今季は夏場に入ってからA型が増え始めました。県地域保健課は「今季は冬場のまん延が抑えられていた。その分、免疫を持っていない人が多く、夏に感染が広がった可能性がある」と分析しています。

■夏流行の背景

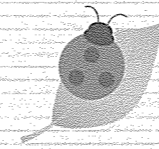
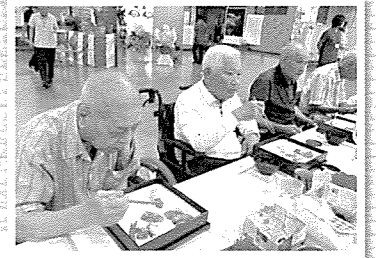
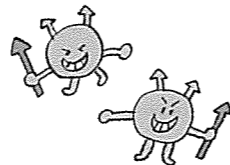
インフルエンザは、空気の乾燥と気温の低さに関係し、冬に流行するといわれています。ところが、沖縄では10年ほど前から夏にも流行しています。なぜ沖縄だけなのか、はっきりした理由は分かっていません。他の亜熱帯性気候の東南アジア諸国でも夏場に流行しています。これらの地域からの観光客が多く、交流が盛んな沖縄は、本土に先駆けてウイルスが流入し、夏の流行へ発展するのではないか、と考えられています。さらにエアコンによる閉め切った乾燥寒冷環境が増えたことも、原因ではないかと言われています。

■防ごう!! 感染拡大

通常、インフルエンザワクチンは冬の大流行に備え10、11月ごろに接種が行われます。効果の持続は5カ月程度とされ、秋に受けた予防接種は残念ながら翌夏までは期待できません。厚生労働省や県は流行拡大の防止のため、せきとくしゃみをする際にティッシュペーパーで口と鼻を抑える「せきエチケット」や、手洗いの徹底、不要不急の外出を避ける、などと呼び掛けています。冬に向け、妊婦や幼児、高齢者、基礎疾患のある人など重症化リスクの高い人は早めのワクチン接種も推奨されています。

ただしワクチンの主目的は感染を防ぐことではなく「重症化を抑えること」です。重要なのは健康な人がインフルエンザにかからないよう頑張ることよりも、感染者が他人にうつさないよう気をつけることです。症状のある人が外出を控えて家で静養することが、まん延防止につながるのです。そのために、学校や仕事を休める地域文化をつくっていくことが一番の解決策。大事なのは『チームプレー』です。

『琉球新報』より抜粋 入所看護 湧川喜文



デイケア敬老会

10月21日(土) 東風の里、通所リハビリテーションにおいて、敬老会が盛大に行われました。

司会、大城要太主任による挨拶から始まり、会場の利用者様の統べる表情が、とても印象的でした。会は、みどりが丘保育園の園児によるエイサーで幕開け。元気いっぱいの子供達の、はにかみながらも堂々とした姿は逞しさも感じました。くち庭の職員による「かぎやで風」の途中、赤さなじゃくを見事なまでに着こなした上原さんの登壇に、会場も大爆笑!!

祝いの紹介では今年、八十八歳トーカー3名様、九十七歳カジマヤー1名様を、来場者の皆さまや職員で祝福しました。

空手・古武道では、小林美奈子様、門下生による空手の型を披露して頂き、演武者の中には八十八歳と高齢の方もおり、同年代の方の技やキレに皆さんビックリされていました。

また、前職員の城間美香さんによる「傘鳩間節」、「黒島口説」の琉舞。久しぶりの再会に皆さん、懐かしんでおられました。

最後は、締めくくりのカチャーシーで閉幕となりました。

利用者の皆様、お体を大事に、これからもずっと元気でお過ごしください。心をこめて、おめでとうございます。

通所リハビリテーション 與那嶺士郎



皮膚トラブルを未然に防ごう

9月22日に排泄委員会主催の勉強会を開きました。

講師には、白十字社のアドバイザー・田中桃子さんを招いて、オムツの正しい当て方やオムツの商品説明などを行いました。利用者様の排尿量、体型、失禁時の状態に応じてオムツの種類も異なりますが、実際にマネキンを使って排尿がどのように広がるか、漏れているかなど分かりやすく実践して頂きました。

現在、入所している利用者様の半数以上が24時間オムツ交換を行っているのが皮膚トラブルです。オムツを当てることで通気性が減り、誤った当て方でオムツ自体の性能を発揮できずに排泄物が漏れ、それが皮膚トラブルに繋がる原因にもなっています。白十字には通気性のいいトレーニングパンツや、弱酸性の成分の入ったオムツが多数あり、今後、職員一人一人が排泄に対する意識向上、オムツ交換のスキルアップを図り、皮膚トラブルの改善に繋げていきたいと思えます。

3階入所介護 大城佑介



衣替えのお知らせ

朝夕と肌寒く感じる季節となりました。体温調整が難しくなる頃です。お持ちいただいている衣類を夏物から冬物へ入れ替え、夏物をご自宅に一旦引き取っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

夏物と冬物衣類が混在し枚数が多くなり、職員が入浴準備をする際支障を来すことがありますので、必要最低限の衣類をあらかじめ預かりさせていただきたいと思えます。

〔おおよその目安・・・上着・ズボン・肌着・フェイスタオル 各7枚程度〕
ジャンパー・ベスト・カーディ

ガンなどの調整しやすい衣類をご準備下さい。
また、お名前の記入が薄くなった読みづらくなったものは、再度記入をお願いします。なお、貴重品（金銭・腕時計・指輪・ネックレス等）の紛失が見られますので、大切な物はご自宅に保管して頂くようお願い申し上げます。紛失された場合、施設の方では責任を負いかねますのでご了承ください。

今一度、ご家族様にて入所の規定（約款、留意事項）をご確認の上、面会時に利用者様の所持品の点検、名前の記載、貴重品のお持ち帰りをご家族様で実施していただけるよう、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

入所相談員 与儀由加里
池原貴代恵

冬場の脱水に注意！

暑さも和らぎ、移り変わる季節を如何にお過ごしでしょうか？

毎日のように聞かれた熱中症対策用の水分補給の声も、最近では余り耳にしなくなったような気がします。やはり命の源！水分補給はいつでも、誰でもきちんと摂取することが大切です。これからの季節、暑い夏場のように目にみえる汗とは違い、外気の乾燥により、知らない間に身体から水分が失われていきます。

歳を重ねる毎に、トイレの回数が増えるのを億劫がり水分補給を敬遠される方がいますが、冬に流行する感染症も脱水の危険要因となり得ます。積極的な水分補給で身体もそして心も潤いを保ち、しなやかに冬の寒さを耐え抜きましょう。

冬場の水分補給は温かい白湯だと、体の冷え予防にもなりお勧めです。

管理栄養士 世名城加代子

編集後記

朝晩、めっきり涼しくなってきました。明け方の空を見上げるとセンチな気分、心を奪われる今日この頃です。皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか？

さて就学時の子を持つ親としては、長い夏休みも終わりに「ホッ」としたのも束の間、休みが明ければ運動会に学習発表会と子供達の日頃の頑張りを演じる場面が多くなり子供達の成長ぶりに心を動かされます。

今年も長男が小学校生活最後の運動会ということもあり、カメラポジション選びにも気合を入れたのですが、最後の運動会なんだなあと！感慨に耽ると目頭が熱くなり、撮影された映像は酷いものでした。

これから、もっともって子供達の成長ぶりに感動を与えてもらえる事でしょう。親としても子供達と共に成長して行きたいと想っております。

通所リハビリテーション 與那嶺士郎

